

誰もが住み慣れた地域で働き暮らしたい

～みんなが働くことができる

地域社会の実現に向けて～



昭和初期から呉服小売業を営んでおられる「呉服のいちかわ」さんは、障がいがあることにより、すぐに一般企業で就労することが難しい方に、「働く」ということを知り、実践し、経験する場を提供することで、障がいのある方の「育ち」を応援されています。

障がいのある方と働くこと、地域の商店としての就労支援の取り組み、その中で気づいたことや感じたこと等、お話を伺いました。

とちよ
市川友代さん

いちかわたかかず
市川隆一さん

●きっかけは「働き・暮らし応援センター」

市川さんが今回紹介した取り組みを始められたきっかけは、日野町の「わたむきの里福祉会」の事業として展開されている、「働き・暮らし応援センター」からの依頼でした。

働き・暮らし応援センターでは「働きたい」という思いと「働いてほしい」というニーズのマッチングをされています。「地域で外に出ることができない方の社会参加の場として、仕事を体験することを通じて応援をして欲しい」という依頼に、高校の夏合宿の時期は貸布団の需要が増え、配送は大変な力作で人手も必要と思い、実習を経てアルバイトとして雇用されました。

●共に働くパートナーとして

実習に来られている方が必ずされる仕事のひとつに掃除があります。「お客様にとっても、従業員にとってもお店の清潔は基本」と言う思いと、市川さん自身と雇用された方がお互いに仕事をする準備時間になるからです。

また、比較的仕事の落ち着いているときに仕事の練習を開始し、忙しい時期になるまでに仕事に慣れ、身

につけられるようにしておられます。最初は障がいのある方を「雇用」することに対して、少々身構えていたようですが、「一緒に仕事で汗を流すうちに、ともに働くパートナーとして対等に話し合えるようになりました」と話していただきました。

●個性を知って、理解を深める

実習にいられていた方たちは少し話すだけでは障がいのことはわからず、特別な接し方等はしてあげられません。しかし、仕事を進める中で「こういったところに配慮が必要」と見えてくることがあります。市川さんは「その方に合った仕事の提供や配慮ができるようにするため、それぞれの個性を十分に知る必要があると思います」と話され、このことに気づけたときに、障がいに対する理解が深まったと感じられました。

●卒業生の活躍は仕事の活力

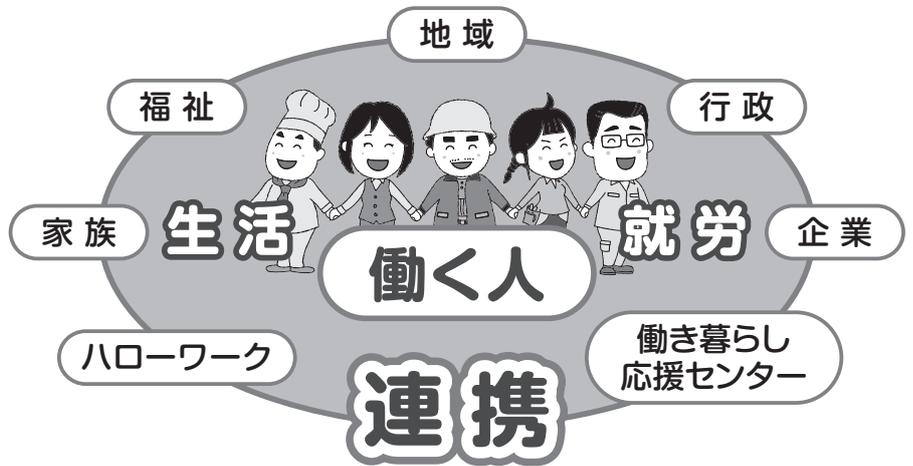
経験を重ね、一般就労をめざし、お店を卒業されます。現在活躍されている方を含めて、これまでに4人の方が呉服のいちかわさんで仕事を経験され、地域に出ておられます。卒業された方が、一般企業などに就職する等次のステップに進んだ後

も、「来たよ」とお店に元気な姿を見せに来てくれたり、保護者の方から感謝の言葉をいただいたりすると、仕事の活力になるとのことでした。「4人も、本当によくがんばってくれて、お店として大変助かっています」と話していただきました。

●商店街や企業にとって大きな役割の一つ

働く仲間に対して親子のような暖かい眼差しを向けられている市川さん。「住んでいる地域で仕事を生身で感じ、学び、育つことを支援することは、地元商店街にとって大きな役割の一つと認識しています」と話されました。

このような取り組みを商店や企業・事業所へと広げ、地域の活性化に繋げ、障がいのある人もない人も、働きたいと思っている人が当たり前になる社会をつくっていきましょ



あなたの職場でも始めてみませんか
「この業務内容で働いてもらえるかな?」「雇用の約束はせず、まず体験だけやってみよう」という企業の方、ぜひ働き・暮らし応援センターへ問い合わせしてみてください。

誰もが働く人を支える応援団

働くことと生活は密接に関係しています。

特に障がいがある人が働くためには、職場や地域など身近なところに、何でも気軽に相談できる人がいることが大切です。

働く人に関わる一人ひとりが「応援団」です。

縁の下の力持ち
働き・暮らし応援センター

働き・暮らし応援センターでは、実際に働いている人だけではなく、働くための準備をする人も「働きもん」と呼んでいます。「働きもん」が地域で働き、生活することができるとともに、人手が必要な事業者にとつての貴重な戦力として活躍できるきっかけづくりを応援しています。

◆問い合わせ先
東近江圏域
働き・暮らし応援センター
(近江八幡市上田町1-2088-1
18 前出産業ビル2階)
☎ 36-12999
福祉課 福祉担当
☎ 6573